

平城宮第202-5次調査（平城京左京三条二坊六坪）

- 1、調査地 奈良市三条大路一丁目634-3
- 2、調査原因 店舗付き住宅建設に伴う事前調査
- 3、開発面積 310㎡
- 4、発掘面積 215㎡
- 5、調査期間 1989年6月7日～

<調査成果>

1、主な検出遺構

礎石建物1棟、掘立柱建物4棟以上、塀1条、溝7条、土こう1ほか

2、時期変遷

大きくは奈良時代前半と後半に分けられる。どちらの時期も特別史跡宮跡庭園でみつかった邸宅跡と一連の遺跡。

前半は、蛇行する流路があるだけで、庭園ができていない時期。ただしこれまでの解釈では、奈良時代後半になって池が造られるときまで建物は残り、南に南北棟1棟（復元建物）が付け加えられる。掘立柱02はすでに見つかったSB1571の西延長部。礎石建物01は、この時期では、はじめて見つかった礎石建ちの建物。

後半は、石組曲水の池が造られ、礎石建ちの正殿がある時期。正殿の北にあった掘立柱東西棟の西延長部（掘立柱03）が見つかり、東西9間にもなることがわかった。また掘立柱04もこの時期。

3、出土遺物

調査面積の小さいこともあって、遺物は少なく、少量の軒瓦、須恵器、土師器など。

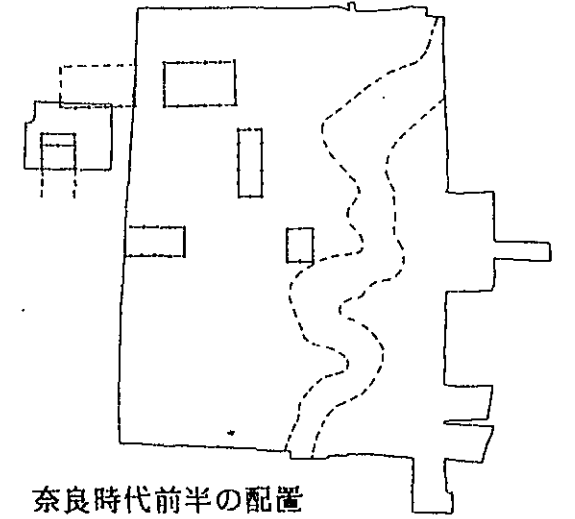
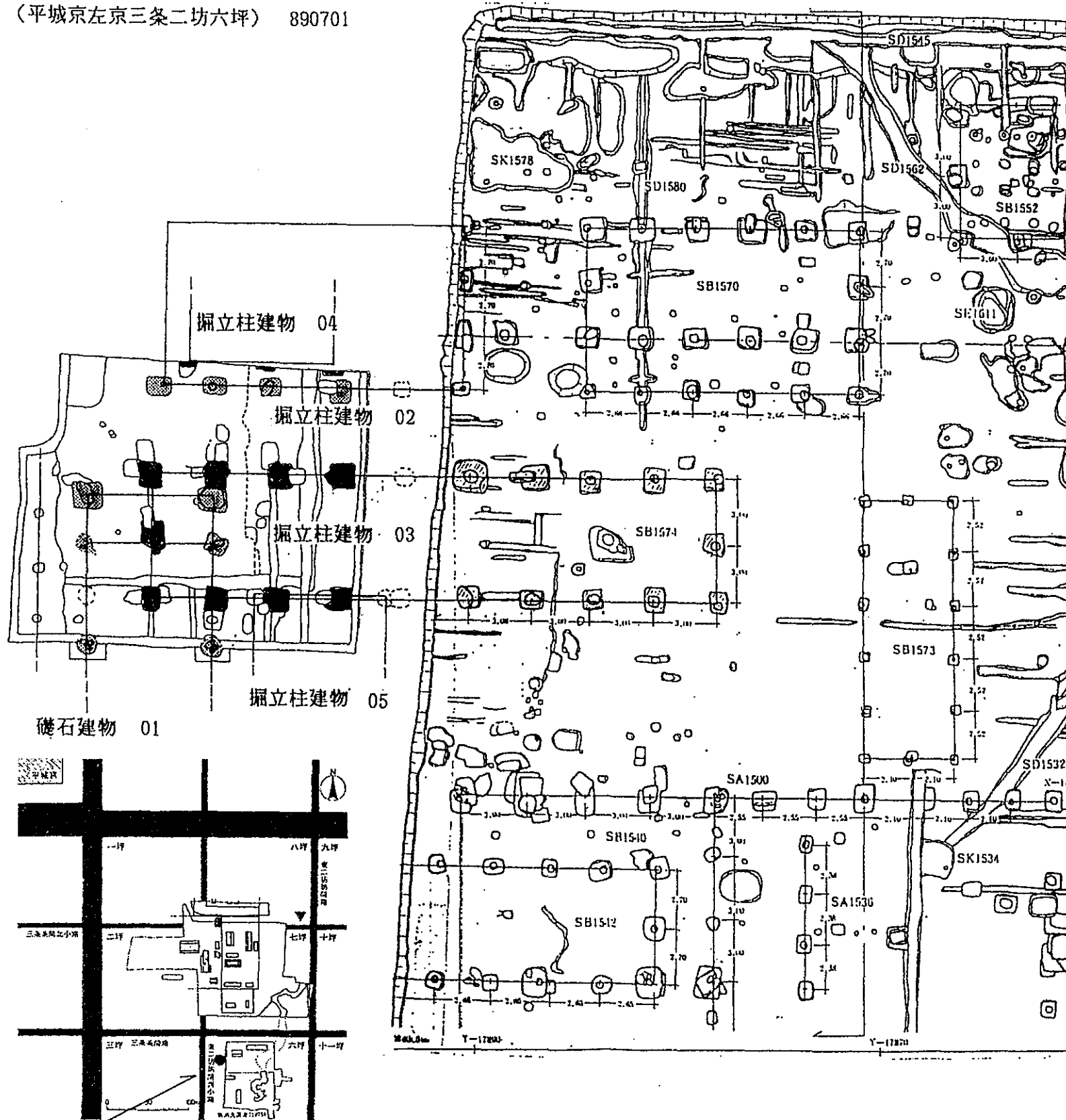
<参考>

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| 宮跡庭園の発掘 | 1977～79年。 整備に伴う発掘 1982～84年。 |
| 史跡指定 | 1978年10月27日付指定告示
1985年 1月16日付追加指定 |
| 指定名称 | 特別史跡平城京左京三条二坊宮跡庭園 |

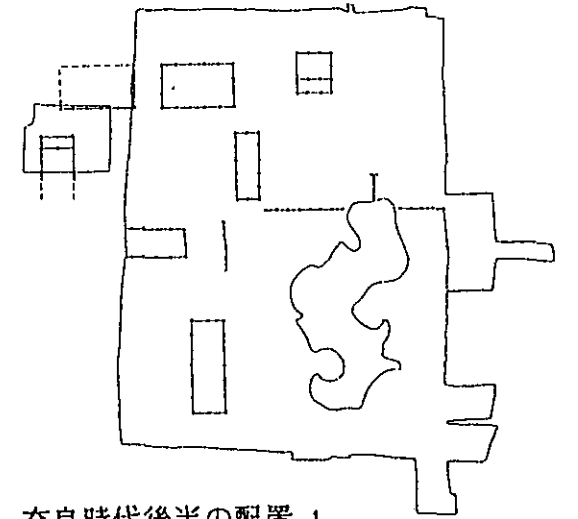
平城宮第202-5次調査 現説資料
 (平城京左京三条二坊六坪) 890701

三条条間路南側溝

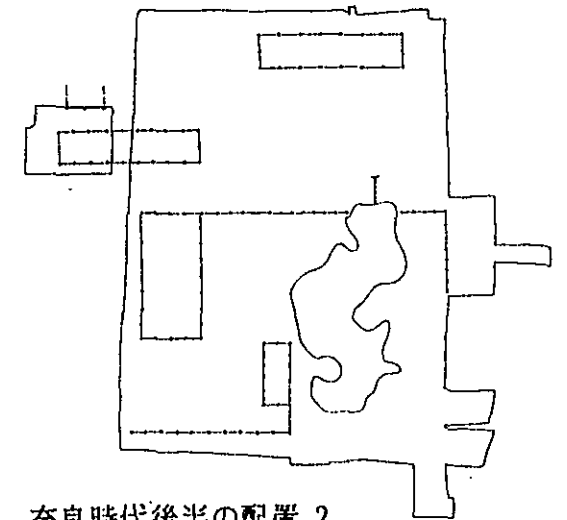
東二坊坊間西小路東側溝



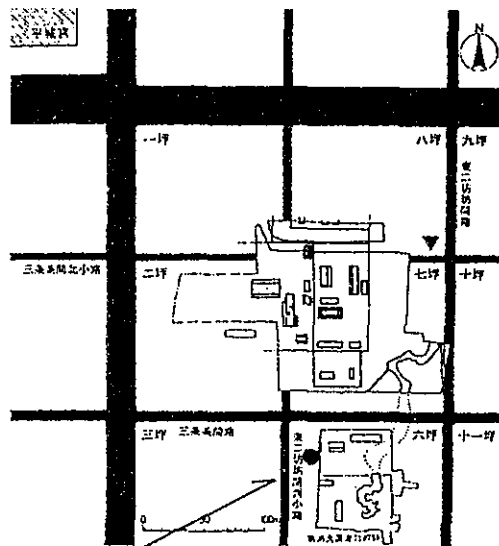
奈良時代前半の配置



奈良時代後半の配置 1



奈良時代後半の配置 2



調査位置